新社会党

みさえ広場つうしん

発行　市会議員　山口みさえ／
連絡先　精道町7-6　芦屋市役所南館3階TEL／FAX　38-2056
ホームページ　　http://misae-hiroba.com/

週刊 新社会

2022年１月号№121

市民のみなさんと一緒によりよい芦屋をめざします

新年を迎えましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。昨年は、コロナ禍でなかなか街角に立つことができなかったのですが、緊急事態宣言が解除になったときは、朝ビラや、スーパー前で議会報告、そしてコロナ関連（芦屋）の情報提供をさせていただいてきました。

多くの方にお声をかけていただき質問や、要望をいただきながら、そのお声をできる限り議会の場（一般質問や常任委員会、所管事務調査など）に届けることができました。市民のみなさんが困っていること、感じていることを直接うかがい芦屋の施策に反映できるよう、今後も街宣活動や交流の場を大切にしながら、みなさまの命と健康を守り、福祉と教育の充実をめざして全力で議会でも発言、発信をしていきたいと思っています。２０２２年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

芦屋市議会議員
山口　みさえ

18歳以下対象の臨時特別給付金

自治体間で対応異なる結果に

芦屋市は所得制限世帯への給付せず

11月30日から12月21日の日程で12月議会が開催されました。山口みさえは、新型コロナに関する臨時特別給付金、ワクチン接種について発言しました。

政府対応が2転3転しましたが、18歳までの子育て世帯に一括10万円が支給されます。

芦屋市の対象者は1万271人ですが、所得制限があるため年収960万円以上の世帯には給付されませんので5千人が給付対象から外れます。

政府は、自治体の実情に合わせて所得制限の隙間を埋めるなら、市が補填することを認めるとしないことだと考えます。

当初、政府が現金5万円、残りをクーポンとしていたのは、給付方法の良し悪しは別として、どの子どもにも学業を保障することが目的でした。

その意味では国が親の所得だけで子どもたちを選別するのはいかがなものかと思います。

芦屋市独自で所得制限をカバーするとすれば、約5億円を補填することになります。市の見解は、「隙間を埋めるために市が税金を投入するかは、それ以外の施策もある中での優先順位、今後、コロナ対策がいつまで続くのかという見通しが立たない中で補填しないという判断をした」というこ とでした。確かに街角に立ちますと、「子育て世帯だけじゃない。もっと困っているところもあるよ」と声をかけられます。施策の優先順位は大変難しいとも思います。

いずれにせよもう少し早く政府が判断してくれていたら、給付のお知らせも一度で済んだのに、一括10万円になったことで、二度お知らせをしなくてはいけなくなりました。事務にかかった79万7千円と、職員の労力が、税金の無駄遣いになってしまったことが残念です。

副反応のリスク含め、情報発信を

3回目のワクチン接種に向け準備進む

3回目の接種準備がはじまっている新型コロナワクチンですが、前回の接種で大きな混乱が生じた芦屋市は、経験を踏まえて国にスケジュールを前もって示すことやワクチンを必ず供給するよう全国市長会を通じて要請しています。

集団接種会場は、前回までは3カ所設置していたものを、今回は1カ所（呉川町の保健福祉センター）のみとなり、その他は市内個別接種医療機関約60カ所での接種になります。

2回目のワクチン接種を終え8カ月に到達された方から順番に接種券を配布することで前回のような混乱は回避されると説明がありました。予約は前回同様、芦屋市が1本化で受け付けますが、以前のように何度かけても電話がかからないということがないよう、電話回線もウェブ予約も増やして準備をしています。

山口みさえの発言

《副反応の備えを！》

これまで大きな副反応の事故はなかったわけですが、厚労省が発出している通知においても心筋炎、心膜炎といった10代、20代にも起こっている副反応が、重篤のカテゴリーとして紹介されています。子どもたちに何かあってからでは取り返しがつきません。

ワクチン接種のリスクは、正確に市民に伝え、知ったうえで本人なり保護者の責任において判断するべきことと考えます。いつ児童生徒がワクチン接腫したか、学校では把握できない中で、接種した当日の安静だけではなく、1週間は用心するよう前もって注意喚起するべきと訴えました。

12歳の誕生日を迎えた子どもと保護者だけではなく、小中学校の児童生徒と保護者のもとには心筋炎、心膜炎に関する副反応のチラシを配るよう要望しました。

《医師会との連携を！》

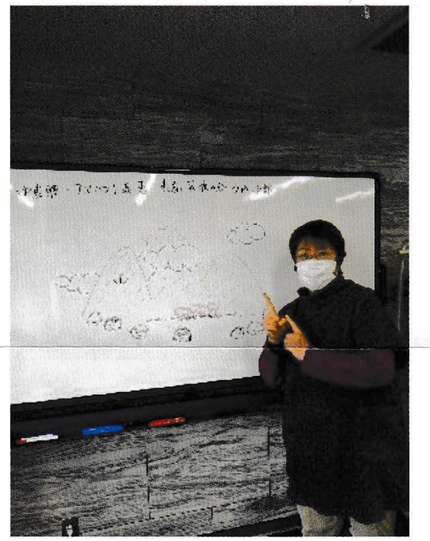
今回は市内個別接種医療機関約60カ所での3回目ワクチン接種にあたり、ワクチンが余ったときのルール（予約なしでは打てないことや、市で在庫ワクチンを把握しておくこと）や、副反応が分かったときのルール（報告を共有する）等混乱がないよう医療機関においても情報の共有が必要かと思います。医師会との連携をしっかりはかるためにも、伊藤市長において調整やお願いなども万全を期していただきたいと発言しました。

《新社会党が要望書》

芦屋市の来年度予算の審議にあわせ、新社会党芦屋総支部は、新型コロナに関する施策を中心に12月28日、伊藤舞市長へ要望書を提出しました。詳細は4面に掲載。

石綿健康被害救済法改正

認定基準見直しなど政府へ要求



家族の会で司会を務める

山口みさえは、中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会ひょうご支部（家族の会）の世話人をしています。

16年12月に、中央環境審議会環境保健部会石綿健康被害救済小委員会が取りまとめた「石綿健康被害救済制度の施行状況及び今後の方向性について」が見直しの時期を迎えています。治療環境の変化や建築業界や公務職場でも新たな司法判断が出されるなど、制度を取り巻く環境は大きく変化しています。

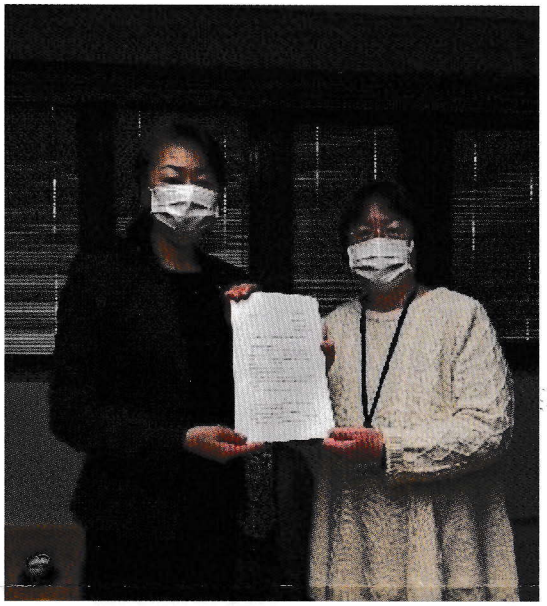
そうした状況を踏まえ、家族の会では政府へ、石綿（アスベスト）健康被害救済法改正について3つの緊急要求を行いました。

①「格差」のない療養手当と「すき間」をなくす認定基準の見直し

②治療研究促進のための「石綿健康被害救済基金」の活用

③待ったなしの時効救済制度の延長

1月には、兵庫県知事あてに「3つの緊急要求」実現のため要望を提出し、健康福祉部のみなさまとも懇談を予定しています。アスベスト被害をなくし、すき間と格差のない救済をめざして山口みさえも全力で頑張ります。



コロナ対策の強化を要望

新年度予算の審議にあわせて、山口みさえが所属する新社会党は、新型コロナウイルスに関する対策について要望書を提出しました。

18の項目について要望し、伊藤市長は、「第6波に備えて3回目のワクチン接種が少しでも早くできるよう準備をしていく」と応じました。

新型コロナウイルス感染の更なる対応策強化について（要望）

1　PCR検査を希望する全ての人を対象に実施し早期発見と治療に結びつけること。
2　新型コロナワクチン接種に関する情報提供を丁寧に行うこと。
3　新型コロナワクチン接種において医師会等との連携を強化すること。
4　児童への新型コロナワクチン接種については、児童や保護者に対し的確かつ丁寧な情報提供に努めること。また、強制に及ぶ接種勧奨を行わないこと。
5　新型コロナワクチン接種実施の可否に伴う「差別等」の課題や問題に適切に対応すること。
6　感染者急増時の医療体制を強化すること。
7　緊急入院必要感染者への受け入れにあたり関係機関との連携体制を図ること。
8　「自宅療養者」に対する的確な医療提供と日常生活支援策を講ずること。
9　介護者や家族の感染時の対応策、安心して療養できる環境整備を図ること。
10、介護施設での感染者発生時の入院体制整備や職員感染時の支援策などを検討すること。
11　学校園等における未就学児童・生徒へのきめ細やかな支援と保護者への情報提供（心筋炎、心膜炎などの副反応も含む）を行うこと。
12　保健所機能充実を人員確保も含め兵庫県に求めること。
13　保健所と芦屋市との連携強化を図ること。
14　オミクロン株の患者の濃厚接触者の自宅待機にあたっては保健所との情報共有に努め支援等を行うこと。
15　新型コロナウイルス感染禍による中途退学者などへの支援策を講ずること。
16　感染症増加に伴う雇用環境変化（解雇や一時休業など）への生活支援策を設けること。
17　感染症予防策等による休業や事業収益減少経営者への独自支援制度拡充を図ること。
18　感染後遺症に悩む方たちへの情報提供および、後遺症外来やリハビリテーションセンターの充実を兵庫県に求めること。

子育てについて声を聞かせてください

芦屋市の子育て支援施策に反映させたいと考えていますので、子育て真っ最中の保護者からの率直な声を聞かせて下さい。

みさえの独り言

毎年恒例の行事がコロナによって2年続けて中止を余儀なくされた。春には老人会の方たちとのお花見、5月にはアスベスト患者と家族会の方たちとの日帰りバスツアー、夏には地域の方たちと盆踊り、秋には階層間交流会党のおもちつき大会、冬には新社会党のフェスタ、全部中止になってしまった。「今年も中止？仕方ないね」「だんだん外に出るのがおっくうになる」と、みなさんそれぞれに集まる場を大切に思ってくれていたのに、寂しい思いをしているのがよくわかる。主催する側としては、形を変えて規模を小さくしてできないかと、知恵を出し計画を立ててみるのだが今は断念せざるを得ないのが辛い。早く集いたいものだ。